

# 「加治木小学校の加治木くも合戦伝承活動の取組」

## 1 学校名

始良市立加治木小学校

## 2 学年・人数

5年生（計52人）

## 3 日時・場所

### （1）練習の日時・場所

平成30年5月～7月 総合的な学習の時間（教室）

### （2）発表の日時・場所

平成30年6月18日（月） 総合的な学習の時間（本校体育館）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

### （1）名称

加治木くも合戦（かじきくもがっせん）

### （2）由来

加治木町くも合戦保存会によって受け継がれている400年以上の歴史を誇る伝統的な行事で，島津義弘公が文禄・慶長の役に参戦した際に，兵士の士気を高めるためにこがねぐもを集めて戦わせたのが始まりとされている。

### （3）構成等

参加するこがねぐもは主に薩摩半島・大隅半島の南部で採集され，参加者によって飼育される。対戦は，ヒモシと呼ばれる長さ45～60cm程の横棒の上で2匹のこがねぐもの雌どうしによって行われる。対戦は行事によって取り仕切られ，相手の尻に噛みついたり，相手を棒から落としたりすると軍配が上がる。

## 5 保存会や地域との連携の具体

校内くも合戦に向けた学習を開始するにあたり，くも合戦保存会の方をゲストティーチャーとして招き，くも合戦についての歴史や取組内容等について説明をしていただきながら学習を行った。

くも合戦1週間前に，くも合戦保存会の企画によるバスでの大隅半島南部クモ採集に参加し，採集方法や飼育方法を学びながら，校内くも合戦に参加させるクモを採集した。

校内くも合戦では，実際のくも合戦で使用するヒモシ等の道具や法被などを準備していただき，予選の補助や決勝戦の行事もしていただいた。

校内くも合戦で対戦したくもを，くも合戦保存会の方に委託し，もとの生息地に戻した。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

くも合戦の始まりについて，インターネットや文献を使って詳しく調べ，く

も合戦に関する島津義弘公から視野を広げ、郷土の先人や鹿児島県の歴史について、鹿児島ジュニア検定と関係づけながら深く学べるようにした。

400年以上くも合戦を支えてきた人々の願いや苦勞について話し合い、自分の身近に素晴らしい文化財が引き継がれていることや、これから文化財を伝承していくことの大切さについて学べるようにした。

昨年までの校内での放し飼いかから、1匹ずつネットに入れた餌付けや観察がしやすい環境へと変更し、くもを身近に感じられるようにした。

校内くも合戦を、より加治木町くも合戦に近づけるために、参加や見学を推奨することで、実際に見聞きした本物を伝えられる環境を設定した。

## 7 取組の様子



校内くも合戦予選会



校内くも合戦決勝戦



くもをじっと見つめる低学年の子どもたち

くも合戦当日は、5年生だけでなく、低学年の児童も予選の様子を見学し、次年度以降へと引き継いでいく。

## 8 参加児童生徒の感想

- ・ 当日は保存会の人たちのおかげでスムーズに進めることができた。
- ・ 学校ができたときから続いているから、保存会の方に感謝したい。
- ・ 自分のやるべきことをやり、くもを育ててみんなで決勝に行けてよかった。
- ・ 水やバッタをいっぱい食べさせて強くできた。
- ・ ぼくはくもが嫌いだけど、意外に楽しく育てられた。巣を作りやすく木の枝を使って作った。今思うと、くも合戦は楽しいなと思った。
- ・ 2週間位前にくもをつかまえて大事に育てることができた。決勝には行けなかったが、加治木の文化に親しむことができた。試合が終わったら食べ物をあげたいと思った。
- ・ くも保存会の方が指導してくださって優勝することができた。
- ・ くもは怖いけれど、人を楽しませてくれてすごいなと思った。
- ・ 餌取りは大変だったけれど食べているときの姿を見れてよかった。また、他の学年の子も「すごい」と言ってくれていた。
- ・ 町内でも校内でも1勝もできなかったのが悔しい。
- ・ はじめてくもを育てて、くも合戦もして楽しかった。これからもくも合戦が続いてほしい。戦ってくれたくもにも「よくやったな。」と言いたい。